

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム にこにこひがしやま やまゆり

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900074		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホーム にこにこひがしやま やまゆり		
所在地	〒029-0302 岩手県一関市東山町長坂字北磐井里187-3		
自己評価作成日	令和4年8月3日	評価結果市町村受理日	令和4年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前に行えていた事が、当たり前に行えるように支援しています。 ・コロナ禍で、地域や家族との交流が制限される中でも、可能な限り家族と関わりを持てるように考えています。 ・その人の心の中にある「ふるさと」をずっと大切にしていきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームであった建物を改装してグループホームとして活用していることもあり、老朽化が進み修繕力所が多くなってきている中にあっても、職員は「笑顔・信頼・安心」とする事業所の理念を毎日の介護で実践している。近年は、大雨による避難情報がしばしば出され、年間5回の避難訓練を重ねながら、毎年のように全員が市の体育館へ事故無く避難している。さらに近隣住民による防災協力隊は事業所にとって頼りにしている存在である。医療面では入居前からのかかりつけ医の継続に加えて、訪問診療の利用も始まっており、看取りの体制も整いつつある。職員は心を一にして「職員が楽しくないと利用者も楽しくない」、「職員に笑顔が無ければ、利用者にも笑顔はない」を職場のモットーとして、日々のケアに当たっている。利用者のみならず、家族や地域の方々から評価の高い事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま やまゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ企業としての理念とグループホームとしての理念を玄関、スタッフルームに掲げ共有し実践に取り組んでいる。	「笑顔・信頼・安心」とする事業所の理念は、簡潔な表現で職員や家族にも理解しやすく、日頃から笑顔を絶やすことなく、安心感のあるケアの実践に結びついている。困難ケース等について振り返りを行う場合には、理念に沿って、職員の目線の在り方と介護の方向性を見出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の清掃活動や文化祭への出展、夏祭りを開催する事での地域、近隣施設との交流があったが、コロナ禍で現在は交流は行っていない。	コロナ禍の前には、近所の清掃活動への参加などの交流機会もあったが、ここ数年は控えている。それでも、近所の老人クラブの会員の方が時々来訪してくれている。コロナ禍の収束後に向け、近隣との交流の再開やボランティアの受入れ等を考えたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の老人クラブ定例会への出席等行っていたが、コロナ禍で行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍のため文書での開催としている。	委員として支所職員のほか、区長や老人クラブ会長、民生委員、駐在所の警察官、全ての利用者家族が参画し、バランスのよい構成となっている。コロナ禍で書面開催が続いており、その都度委員から意見を返信していただいている。家族委員からは、事業所に対する感謝の返信を多くいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	災害時等、連絡を取り合い、助言や地域情報の提供を頂く等連携をとっている。	運営推進会議委員に市役所支所の担当職員が参加しており、毎回資料を送付して運営状況の理解をいただき、要介護認定申請の際に限らず、何かあれば情報交換や相談をさせていただいている。また、防災担当部署とは、大雨で避難情報が出される際には、直接電話での連絡があり、速やかに避難することができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の各事業所の管理者が構成員となり身体拘束廃止委員会を設置。3か月に1度会議を行っている。年2回勉強会を開催するように努めている。会社全体で身体拘束を行わないよう取り組んでいる。	運営法人が主催する身体拘束廃止委員会は3か月毎に開催され、委員会での協議は職員全員に回覧し確認しあっている。職員向けの研修は年2回行い、身体拘束に関する理解を深める効果を挙げている。転倒防止のためのベッドセンサーは全体で12人ほどが使用しており、家族には趣旨を説明し了解を得ている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま やまゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	デイサービス、居宅と共に委員会を設置し月1回会議を開催している。定期的にチェックリストの実施や分析等を行い、虐待の芽も見逃さないよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を利用し学んでいる。現在は制度を利用している利用者は居ないが、必要な場合は関係者と相談しながらすすめていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明を行い、不安や疑問がないようにしている。改定などの際には都度説明を行い、不安や疑問がないよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	文書での開催となっている事もあり、全利用者様のご家族様に運営推進会議の構成員となって頂き、意見を覗える取り組んでいる。	家族全員を運営推進会議の委員とし、資料を送付して意見を伺う工夫を行い、返信の大半には事業所への感謝が記されている。通院同行で来訪された際にも家族からお話を伺うようにしているが、運営に関する要望等は余り出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談や、日常的に質問や意見を聞けるよう取り組んでいる。必要に応じてか会社内の他事業所の管理者とも相談しながら反映出来るよう取り組んでいる。	毎月の職員会議で職員から様々な意見が出されている。業務全体の流れや個別の対応について話し合わせ、夜勤時の休息時間の改善に繋がった事例もある。管理者との個人面談は年2回程行われ、率直な話し合いが行われ、職員のモチベーションの向上にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、評価は本人にも面談の際に話している。衛生委員会を設置しており、就労環境の整備に努めている。		

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま やまゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のレベルに応じて外部研修を申し込んでいる。介護福祉士資格に関しては、実務者研修の費用負担を会社で行っている。SGグループ主催で受験対策研修会もっており、資格取得に向け支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加やグループホーム協会への加入でネットワーク作りを行っている。また、SGグループの他事業所とも連携しサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人にお会いし状況の把握や思いの確認に努めている。可能であれば入居前にショートステイを利用し本人が安心して利用できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申請時や入居前に不安な事等話を伺い、安心して利用できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネやMSWと相談し、グループホームの利用が適正かどうか検討している。状況によってはグループ内の老健でリハビリを行ってから入居する等、可能な限り対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で役割を持ってもらったり、これまでの経験を活かして教えて頂いたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で対面での面会は難しい状況ではあが、不安な時に電話で対応してもらう等、絆が薄くならないよう対応している。また、何かあればご家族様と相談しながらすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前のように気軽に行動する事が難しくなっているが、入居した事で出来なくなる事を少しでも減らせるよう努めている。	コロナ禍以降は、友人や知人等の来訪はなくなり、外出機会もほとんどないため、馴染みの関係の維持は難しくなっている。家族の付き添いで通院した際に一緒に外食をしたり、空き家となっている実家が気になり職員とともに見に行く利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りをしてくれたり、不安時等利用者様同士で話しを聞いてくれる等されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の不安を軽減できるよう相談に乗ったり、出来る限りの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接話しを聞いたり、意思疎通が困難な場合には様子や反応を見ながら支援を行っている。	自身の思いや意向を言葉で表現できる利用者は全体で2/3ほどいる。ホールでやってみたいゲームや職員の作業の手伝いなど、様々な希望が利用者から出されており、一つ一つ希望を叶えている。職員が把握した内容については、それぞれケース記録に記載し、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネ等から話しを伺い、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の意思を尊重し、その方が望む生活が送れるよう心掛けている。その中でどこまで出来るか、何に戸惑っているのかを見逃さないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等でケアのあり方について話し合っている。ご家族様からは受診等で来所された際や電話等で相談し意見を伺っている。	利用者への対応は職員の担当制となっており、介護計画についても計画作成担当者と担当職員で原案を作成し、全体の職員カンファレンスで検討のうえで決定している。計画の見直しは3ヵ月毎としており、モニタリングも担当者が行った上で、全体で検討している。計画の見直しに際しては、家族の同意を得て進めている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま やまゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノート等で皆が情報共有できるよう取り組んでいる。また、介護記録をもとに介護計画の見直しや評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	終末期の利用者様の妻がデイサービスを利用されている。妻の居宅も当事業所という事もあり、一緒に誕生会をお祝いする計画をたてた事があった。また、入居中に身体機能の低下等で入浴が行えない際には、デイサービスの特浴を借り対応する等協力をもらいながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域の行事や文化祭に参加していたが、コロナ禍で参加は難しくなっている。図書館から本をレンタルし読書を楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も今までのかかりつけ医の受診を継続してもらっている。基本的にはご家族様に受診対応をお願いしており、必要に応じて手紙の作成や同行し適切な医療を受けられるよう支援している。	大半の利用者が入居前からのかかりつけ医を継続受診し、一関市内の開業医に通院している。通院には半数以上の方に家族が付添っている。最近になって、1人の利用者が訪問診療に切り替えている。日常の健康管理等は、併設のデイサービスの看護師が週1回来訪して対応しており、医療との連携は良く保たれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護師が兼務している。週1回の出勤のため、前回出勤時以降の様子を看護記録にまとめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報を作成し病院へ提出している。早い段階で医師、看護師に話を伺い、スムーズに対応している。また、病院主催の地域情報交換会へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師を含めた関係者や職員間でカンファレンスを行い、意識の統一や不安軽減をしながら取り組んでいる。	重度化した場合の対応については、入居時に本人や家族に説明し了解を得ており、看取りに関する取組み指針も作成済である。これまで看取りの経験がなかったが、訪問診療をかかりつけ医としている利用者の方が、主治医から協力の内諾を得ることができたことから、今後、看取りの取組みを進めていくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習を受講し対応に備えている。実際利用した際には、混乱する事なく利用出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方々と防災協力隊を結成して頂いている。年1回の総会と合同避難訓練を行っていたが、コロナ禍で中止となっている。その他にも年5回の避難訓練を行ったり、基本的に避難指示レベル3が出た際には東山総合体育館へ避難している。	ハザードマップで水害地域に指定されており、大雨に伴う高齢者避難情報が出されるたびに、実際に東山総合体育館に避難している。避難先では一般住民とは別の部屋を確保してもらい大変助かっている。但し、ベッドを施設からその度に運ぶ必要があるのが難点としている。近隣住民の防災協力隊はコロナ禍で休止しているが、事業所として頼りになる存在である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束の勉強会や職員同士で意識しあいながら取り組んでいる。	「さん」付けで呼ぶことを基本とし、利用者の尊厳の確保に努めている。神棚の飾り付け方など、利用者に教わることもあり、その度にお礼の言葉を忘れないようにしている。また、入浴や排泄介助の際には、利用者の羞恥心に配慮して、周りから見えないようにしたり、静かに声掛けするなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者様の意向を聞き逃さないよう気を付けている。また、穏やかに話す等利用者様が気持ちを話やすい環境を作れるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今何をしたいのか、可能な限り本人の「今」を大切にしながら支援している。難しい場合には本人と相談しながら支援出来るよう心がけている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま やまゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する事が減っているが、利用者様によってはマナーとしてお化粧をしたいと思われる方もいる。希望時には支援出来るよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は一緒に買い物へ出かけたり、外出したりしていたが、コロナ禍で出来なくなっている。食事の準備を一緒に行う事は難しくなっているが、後片付けは一緒に行っている。	献立作成担当の職員が決まっており、利用者の好き嫌いもメニューに反映するようにしている。利用者は、野菜の皮むきや料理の盛り付け、食器拭きなどを手伝っている。敷地内の菜園ではトマトやピーマン、ナスなどを栽培し成長を楽しみにしている。季節ごとの行事食も提供しており、楽しみにされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録し職員が把握できるようにしている。夏場は脱水予防のため、ゼリーを作り1日3回プラスで提供している。食欲が無い利用者様には個別で食べたい物、食べられる物を準備し利用者様のペースに合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。個々に応じて必要な介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	何らかの介護用品を使用している方が多いが、皆様トイレで排泄されている。排泄チェック表をもとにパターンを把握し、個々に合わせた支援を行っている。	布パンツを使用する自立している利用者が全体で3人、他はリハビリパンツとパッドの使用となっている。排泄チェック表によって適時の声掛けと誘導を行っており、昼夜を問わず全員がトイレでの排泄が出来ている。失敗することもあるが、職員はさり気ない声掛けと素早い対応を心掛けながら介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	認知症状と便秘の関係に関しては認知症の研修で学んでいる。排便の確認や起床時の牛乳の提供等で便秘の予防に取り組んでいる。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま やまゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人週2回以上の入浴が出来るために予定は立てているが、その時の利用者様の状態や思いに合わせて対応している。一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめる事を心がけているため1日3人程度ずつの入浴となっている。入浴を楽しめるよう入浴剤を入れる等工夫している。	コロナ禍もあって、入浴が大きな楽しみの一つになっている。殆どの利用者は、1週間に2回以上の入浴となっている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず日をずらすなどしている。職員と1対1になれる貴重な時間でもあり、会話を楽しむ利用者も多い。入浴剤のほか、季節を感じられるゆず湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使用していた寝具を持ってきてもらっている。一人部屋で気を遣う事なくゆっくりと過ごせるようにしているが、皆と一緒にいることで安心されたり、足を伸ばして座りたい方もいるため、日中は横になれるソファを置いたり、フローリングのスペースを作る等工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を基に薬の確認を行っている。服薬時には職員同士確認しながら確実に服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から本人の出来る事、好きな事、楽しみ等プランに取り入れ、楽しく張りのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はドライブやご家族様の協力のもとふるさと訪問等行っていたが、コロナ禍となり行えていない。敷地内の畑作業や敷地内の散歩へは可能な限り希望に沿って行けるよう取り組んでいる。	コロナ禍の中、以前のように思うような外出は出来ていない。敷地内の畑での軽作業には、数人が参加し楽しんでいる。また、敷地内での散歩などは、外気浴を兼ねて希望に沿って対応したり、室内での軽運動やDVD鑑賞などを可能な限り取り入れている。	コロナ禍が長期化し利用者の外出希望も多いと思われるため、感染予防に十二分に配慮しながら、ミニドライブ等の形での外出機会の提供を検討を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針として金銭の管理は行わない事になっているが、利用者様によっては自分で管理したい方もいる。ご本人、ご家族様に説明をした上で通帳等自己管理し、支払いや振り込み等自分で出来るよう支援している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこひがしやま やまゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上色々な制限があるが、可能な限り利用者様がゆっくりとすごせるようソファを多めに配置したり、足を伸ばして座れるスペースを作ったりと工夫している。	特養を改修した施設で老朽化に伴う苦勞を抱えているが、職員の工夫で全体的に明るく温かい雰囲気を醸し出している。ホールには、テーブル席やソア一席がゆったりと配置され、テーブルには、季節の花(当日はキキョウ)が飾られ、壁にも季節の飾り付けや行事の写真などが飾られている。利用者は、ホールで体操やゲーム等を楽しみながら過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやフローリング等テーブルの自席以外でも過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や手紙を飾ったり、植物を置いたり、使い慣れた物を置き、居心地の良い場所になるよう工夫している。	居室にはエアコンが設置され、利用者の状態に合わせたベッドやマットレスが備え付けられている。利用者はそれぞれ自宅で使っていたテレビや時計、衣装ケースを持ち込み、家族の写真や好みの絵などを持参し、居心地の良い居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所等分かりやすいよう大きく表示している。時々分からなくなり支援する事もあるが、歩行が不安定で付き添いが必要な方以外は自立して建物内を移動されている。		